

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協ニュース

2025.11月
通巻 第620号

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
 〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

本号の主な内容

- 2面 【学会の目・眼・芽】変化の時代の自己研鑽
 (公社)日本造園学会理事、東京農業大学地域環境科学部造園科学科教授 荒井歩
 樹上作業時の墜落・転落防止へ「造園ワークポジショニング作業」説明会を開催
 北陸支部が北陸地方整備局と意見交換会を開催
- 3面 造園技術フォーラム部会 活動報告 全国の造園DX事例から学ぶ
 造園・環境緑化産業振興会 若手技術者による交流会を開催
- 4面 【ふるさと自慢】自然・歴史・食・文化・スポーツ五拍子そろった自慢の宮崎
 宮崎県支部 馬原久幸(株)馬原造園建設
 【緑滴】花徒然
 宮城県支部 瀧口直美(株)牧山

「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会 大臣表彰を佐藤氏、稻富氏が受賞



全国大会の第二部の冒頭で挨拶する高梨雅明（一社）日本公園緑地協会会長

「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会は（一社）日本公園緑地協会の主催で、10月31日（金）に東京都港区の日本消防会館で開催した。

第一部の事例発表会に続き、第二部の全国大会は、主催者の高梨雅明（一社）日本公園緑地協会会長のあいさつの後、ご来賓の佐々木紀国土交通副大臣が祝辞、表彰と講演、報告が行われた。

表彰では日造協から、「令和7年度都市緑化及び都市公園等整備・保全・美化運動における都市緑化功労者国土交通大臣表彰」を佐藤榮氏（79）手形造園土木（秋田県）、稻富俊広氏（61）（有）稻富造園（徳島県）が受賞。「第41回都市公園等コンクール」では4社が受賞した（別表）。

その後大会では、「公園リノベーションを主体的、計画的に展開していくため」をテーマに平田富士男兵庫県立大学名誉教授が講演。第41回都市公園等コ



都市緑化功労者表彰受賞者を囲み記念撮影

ンクールの国土交通大臣賞を受賞した「官民連携でリニューアル尼崎駅前中央公園」について、受賞者の尼崎市、阪神電気鉄道（株）、阪急阪神不動産（株）、（株）空間創研を代表して、松本眞尼崎市長が報告。第45回みどりの都市賞の内閣総理大臣賞を受賞した「馬場川通りアーバンデザインプロジェクト（群馬県前橋市）」について、受賞者の都市再生推進法人（一社）前橋デザインコミュニケーション、（株）ランドスケープ・プラスを代表して、平賀達也（株）ランドスケープ・プラス代表取締役社長が報告を行った。

第41回 都市公園等コンクール 日造協関係受賞者

国土交通省 都市局長賞	施工部門「日比谷公園第二花壇施設整備工事」 材料・工法・施設部門「都市公園における3Dプリンタ部材の活用」	日比谷・昭立・みつき建設共同企業体 (株)八廣園 東京支店、(株)Polyuse
(一社)日本公園 緑地协会会长賞	施工部門「船頭場公園高台広場」 管理運営部門「相模原公園 国際園芸博 に繋ぐ緑の価値発信」	名古屋市、東海建設（株）、大有建設（株）本店、大島造園土木（株） 神奈川県公園協会・サカタのタネ・サカタのタネグリーンサービスグループ

令和7年度 優秀施工者 國土交通大臣顕彰

建設マスター日造協から8氏が受賞

令和7年度優秀施工者国土交通大臣顕彰式典が10月28日（火）、文京シビックホールで行われた。日造協からは、建設マスターに、横山秀正・（株）中新造園、朝生章・朝生林業（株）、岡澤圭二・（株）山梅、岡澤廣樹・グリーン産業（株）、柴田征充・

（有）猿投観葉、小島聰司・（株）小島庭園工務所、下田代晃洋・木下緑化建設（株）、石田明子・（株）中村緑地建設、8氏が受賞。式典では佐々木紀国土交通副大臣からの優秀施工者国土交通大臣顕彰の表彰状の授与が行われた。

2026新年造園人の集い

2026年1月6日（火）17:50より

品川プリンスホテル

東京都港区高輪4-10-30

☎ 03-3440-1111

樹林

（一社）日本造園建設業協会理事
 （株）新潟造園土木 代表取締役社長 近陽一郎



今までで一番暑い夏を終えて ～熱中症対策と労働時間～

もう11月である。1年を振り返るには少し早いかもしれないが、今年1番印象に残ったことは夏の暑さである。今年ほど暑いという言葉を発したことは今までなかったと記憶する。

今まででは1933年に山形で観測された40.8℃が日本の最高気温として記録されていたそうだが、この記録は2007年に岐阜県多治見市と埼玉県熊谷市で40.9℃を観測するまで74年間も破られなかった。

しかし、それ以降も気温は上がり続け、今年の8月5日に群馬県伊勢崎市で41.8℃を記録し、日本歴代最高気温を更新した。全国的にも各地で猛暑日の日数を大幅に更新し、北海道の北見市でさえ39.0℃の最高気温を記録した。

また、6～8月の全国平均気温は、統計を取り始めた1898年以降最も高かった。平年と比べても2.36度高く、これまで最高だった昨年と一昨年を上回り、3年連続で最も暑い夏となつた。このように地球温暖化の影響を受け年々確実に日本も沸騰化している。

そこで問題となったのが屋外での業務が多い我々造園業の熱中症対策であった。今年の6月に『職場における熱中症対策の強化について』改正労働安全衛生規則が施行された。

その主な内容は熱中症の恐れがある労働者を早期に見つけ、その状況に応じ迅速かつ適切に対処することにより熱中症の重篤化を防止するために、「体制整備」、「手順作成」、「関係者への周知」が業者に義務付けられた。違反すれば罰則もある。

また、別の対策として夏季休工制度や猛暑日を完全に休工し、その分工期

を延長することなどが官庁工事において実施されたところもあった。

しかし、休工することで労働者の収入減や収益性の低下、そしてコストの増加などが起きてくるので余り現実的ではない。また、段取り上、休工が難しい場合も多々ある。ましてや民間工事では難しい。いずれにしても職場において危険な暑さから労働者の安全を守るのは経営者の重要な責務である。

一方、労働者の命を守ることとは別に経営的な問題がある。それは実労働時間である。実際、熱中症対策としてこまめな休憩により塩分水分などを取りなさいと指導はしているが、今年の猛暑の中ではかなり多くの休憩を取らざるを得なかった。そうすると実際の労働時間は10～30%は減少してしまう（実際はもっと減少することも）。

このことからも現在の積算基準において真夏日に対する現場管理費の補正に限らず、直接工事費（実労務部分）について補正が行われるように見直しや改正を行政に働きかけていく必要があるのではないかと考える。

来年以降も猛暑が常態化していくと言われている。このような状況の中、我々はいかにして労働者の命を守りながら、経営的にも経済的にも効率的に現場を運営していく方法を、知恵を出して考え実践していくことが重要であると思っている。

余談であるが、今年我家のサフィニアが初めて冬越した。とても驚くとともに温暖化が本当に進んでいるのだと強く実感させられた。

秋の叙勲・褒章 高木氏はじめ7氏が受章

2025秋の叙勲・褒章受章者が発表され、日造協関係では、7氏が受章の栄に輝いた。

【旭日双光章】高木淳一（70）（株）高木造園（滋賀県）、渡邊進（74）（株）八廣園（埼玉県）

【瑞宝単光章】玉尾重秋（70）（有）玉尾造園土木（秋田県）

【黄綬褒章】井内優氏（70）（株）井内屋

高木淳一氏
井内優氏



渡邊進氏



玉尾重秋氏

嘉屋幸浩氏
中原敏明氏



中原敏明氏

樹上作業時の墜落・転落防止へ

「造園ワークポジショニング作業」説明会を開催

日本造園建設業協会（日造協）と日本造園組合連合会（造園連）は、7月8日に建設業労働災害防止協会の協力のもと、造園工事の樹上安全作業マニュアルに示す「造園ワークポジショニング作業」説明会を、都内の会場とWEB配信で開催した。樹上作業において「墜落自体を防ぐ」「身体・樹木に衝撃荷重を掛けない」ことを重視した安全対策について関係者で理解を深め、造園ワークポジショニング作業を指導できる人材の養成や普及に努めた。

2022年の改正労働安全衛生法・同規則により、高さ2m以上の場所での作業で作業床の設置や高所作業車の使用が困難な場合、墜落防止用器具を使用することが原則となった。造園業界としても同器具の使用を推奨していたが、樹上作業時の安全性や作業性を疑問視する声が上がった。同器具は、作業員の墜落を制止するため上方に掛けてあるフックが落下の衝撃荷重に耐えられることが前提だが、樹木は樹種や環境によって1本ずつ個体が異なり、強度も数値で示すことが

困難だからだ。健全に見える枝でも腐朽している可能性がある。また、不安定な場所でのこぎりや剪定鋸、チェーンソーなどの刃物を扱うため、自身のけがやロープの破損といった危険性もあり、それを起因とする事故も頻発している。

このような事態を踏まえ、日造協と造園連は安全作業方法を改めて整理し、編集に関して建災防の協力も得ながら、2025年3月に「造園工事の樹上安全作業マニュアル」を発行した。マニュアルには、樹木の環境と目的に応じた作業方法の選定フローを記載。まず、作業環境が高さ2m以上の箇所で、墜落により労働者に危険を及ぼす恐れがある場合は、足場の設置を行う。足場の設置が不可能であれば高所作業車を使用する。高所作業車の使用が難しく樹上作業が必要な場合は、今回の「造園ワークポジショニング作業を推奨する」とした。

造園ワークポジショニング作業は、樹上作業に適したハーネスと2本のロープなど専用器具を使用する。適切な長さに調節できる伸縮機能を備えたロープを作

業箇所の上部にある幹や太枝に回し掛けし、安定姿勢と作業の安全性を確保する。作業中はワークポジショニングロープと移動用ロープを伸縮調節し、常に張力をかけた状態とする。上下や横の移動時もロープの掛け替えを行い、最低1本以上のロープに張力をかけた状態を維持し墜落を防ぐ。

厚生労働省には5月にマニュアルとともに造園の作業環境について説明し、意見交換を行った。「墜落防止用器具の安全な使用に関するガイドライン」に記載されている、「墜落防止用器具のフック等を掛ける場所がない場合など、墜落防止用器具を使用することが著しく困難な場合には、保護帽の着用等の代替措置を行う必要性がある」との内容に対し、「上部に堅固な取り付け箇所がない樹上作業はこのケースに当てはまる」と見解を示すなど、樹上作業のリスクや国としての対応の必要性を共有した。

日造協の荻野技術副委員長からは、「樹木の剪定作業現場で仲間の命が失われるような墜落・転落災害を二度と発生させ

てはならない。全国で本マニュアルの理解を深め、発注者への周知・普及に努めたい」と強調した。

なお、マニュアルや動画は下記サイトにて閲覧・視聴できます。
<https://www.jalc.or.jp/safety/>



説明会のようす

北陸総支部が北陸地方整備局と意見交換会を開催



日造協北陸総支部は10月6日(月)、新潟県公園緑地会館で北陸地方整備局と意見交換会を開催しました。

北陸地方整備局からは加藤智博企画部長をはじめ幹部7名。本部から井内優副会長と伊藤康行専務理事に出席いただき、北陸総支部は近陽一郎総支部長と久郷慎治、北総一朗の両総副支部長をはじめ11名が参加しました。

北陸総支部及び各県支部の課題や要望を事前に提出し、それに対して国の回答をいただいた後、事業量の拡大・確保、公園工事の分割発注や国道の維持管理方

法の状況等について活発に意見交換を行いました。

加藤智博企画部長からは「このようなコミュニケーションの場は非常に大事、業界の方々から率直な課題・要望を聞き、何ができるのかを考えていきたい。とても貴重な時間でした。」との言葉をいただきました。

総支部としても継続して開催し、地域の課題や要望等について共有・意見交換しながら解決していくたいと考えています。

北陸総支部事務局長 吉田 時朗

令和7年度総支部・支部交流会 東北を皮切りに順次開催へ

10月7日(火)に東北総支部・支部交流会、10月10日(金)に関東・甲信越総支部・支部交流会、10月24日(金)に四国総支部・支部交流会を開催した。

交流会では活発な意見交換、情報交換が行われた。これから順次各総支部・支部と交流会を開催していく。

景観計画学、景観マネジメント、景観まちづくりなどが専門
再生エネ促進と景観保全に関する合意形成や、農業景観の解明を通じた地域の生業と暮らしの記録など、人と環境の関係を景観という現象を通して研究している。



が挙がるでしょう。そしてプログラム運営者はCPDプログラムの登録作業を煩雑に感じ、CPD単位申請する側もその申請に手間を感じ。

◆
ただ、冒頭に挙げた言葉の通り「学びの継続」とは自分自身と社会のための活力に他なりません。本来「学び」とは、新たな知と出会うワクワクしたものです。

継続教育に関する日本と欧米の感覚の相違は大きく、「勉強が必要だとは思うが、何を学んだら良いかわからない」という状況が日本人の一般的な感覚だと言われています。

広義の学びの観点からすると、CPDプログラム登録の作業とは、誰にでも

伝わる教育到達目標の設定になっていいかをチェックする機会と言えます。また、己の専門性向上に対しプログラム受講によって得たものを再整理する機会が単位申請作業なのではないでしょうか。

◆
ポジティブな学びのルーティン化のためにも、現在造園CPD委員会ではCPD登録や申請システムのあり方をもっとシンプルで効率的に改善するための議論に取り組んでいます。

CPDに関する人々全体で改善を試みていくことも持続的な学びのひとつです。ひとりひとりの技術者の力が發揮できる世界を皆様と共に目指していきたいと思います。

公園緑地等整備促進議員連盟に3団体から要望 日造協から予算確保・拡大など求める

自由民主党都市公園緑地等整備促進議員連盟が10月30日(木)に開催され、日造協の和田会長、日本造園組合連合会の寺石理事長、日本公園施設業協会の内田会長らの各団体より要望を行った。

日造協からは、①都市公園等関係予算の確保・拡大、②都市の諸課題に対応し

都市公園緑地整備の促進に関する緊急決議

- 一、令和7年度補正予算において昨年度を上回る予算規模の確保、並びに令和8年度当初予算における都市公園緑地等関係予算の満額確保、その際の労務費・資材価格の高騰の影響を反映した経費の確保
- 一、2027年に横浜市で開催される国際園芸博覧会の成功に向けた取組の積極的支援と所要の予算の別枠での確保
- 一、第1次国土強靭化実施中期計画に基づく取組の推進に必要な経費や労務費・資材価格の高騰の影響等を考慮した事業実施に必要な経費について、予算編成過程での適切な反映、並びに必要な予算の通常予算に加えた別枠での確保
- 一、気候変動対応、生物多様性確保、幸福度(Well-being)の向上などの課題解決に向け、グリーンインフラとして多様な機能を有する公園緑地の確保や都市緑地保全の更なる推進のための予算措置及び都市緑化支援機構による緑地の買入れに係る税制の特例措置の恒久化などまちづくりGXの推進
- 一、子どもや子育て世代をはじめとする多様な世代が安心して利活用できる都市公園等の整備及び改修並びに柔軟な利活用の促進
- 一、国民スポーツ大会等の会場やスポーツを核とした地域活性化に資する都市公園の整備の推進、Parc - PFI等官民連携による公園整備の推進
- 一、適正な施工の確保のため、造園工事の造園専門業者への発注、登録造園基幹技能者等の関連資格の普及及び関連する研修の充実並びに資格保有者の配置の推進
- 一、国の主要な施策・事業の推進のために必要となる本省・地方整備局等の体制の充実・強化

学会の目・眼・芽 第146回

変化の時代の自己研鑽

(公社)日本造園学会理事、東京農業大学地域環境科学部造園科学科教授 荒井 歩

「変化の時代には、学ぶ者が地上を制し、学ぶことをやめた者は、自分の力を発揮できる世界がもはや存在しないことに気づく」



これは学び続けることの意義を語った、在野の研究者エリック・ホッファー(1902-1983)の言葉です。学び続けること、学び直すことは、「リスキリング」や「リカレント教育」として昨今重視されています。

驚異的な速さで高度化し続ける業務に対応するため、必要な技術を習得するのが「リスキリング」。仕事と学びのサイクルを持続的に繰り返していくのが「リカレント教育」。このように表現すると、何やら強制的な息苦しさ

を感じ、学びの意欲が萎む人も多いかもしれません。しかし、エリック・ホッファーの言葉はもっと壮大な意図を含むものであり、人生を豊かにするための継続的な学び、生涯学習的な側面を謳っている気がします。



私は今期から日本造園学会のCPD委員会に携わることになりました。釈迦に説法ですが、CPD(Continuing Professional Development)とは技術者の継続教育のことです。

業界の方々に「何故CPDプログラムを受講するのか」と問えば、受講によるCPD単位の取得が公共工事の落札率をアップさせるから、または各自が取得した資格を保持するため、などの声

が挙がるでしょう。そしてプログラム運営者はCPDプログラムの登録作業を煩雑に感じ、CPD単位申請する側もその申請に手間を感じ。



ただ、冒頭に挙げた言葉の通り「学びの継続」とは自分自身と社会のための活力に他なりません。本来「学び」とは、新たな知と出会うワクワクしたものです。

継続教育に関する日本と欧米の感覚の相違は大きく、「勉強が必要だとは思うが、何を学んだら良いかわからない」という状況が日本人の一般的な感覚だと言われています。

広義の学びの観点からすると、CPDプログラム登録の作業とは、誰にでも

造園技術フォーラム部会 活動報告 全国の造園DX事例から学ぶ

昨年に引き続き、造園技術フォーラム部会にてDX（デジタルトランスフォーメーション）の情報収集と造園業界における取組の事例発表を令和7年9月3日（水）～4日（木）に北海道登別市と札幌市にて、DX勉強会に相応しい遠隔地のオンライン併用で意見交換会を開催しました。年々進化している造園DXを参考にし、会員各社が導入する良い機会になれば幸いです。（造園技術フォーラム部会 尾形伸也（有）ミドリ企画）

1. 登別市のDXの考え方と取り組み

1日目は、昨年同様に登別市の小笠原市長に公務ご多忙の中、意見交換会に参加していただきました。

登別市では新庁舎の移転に伴い「DX推進室」を立上げ、職員にノートPCとスマートフォンを1人1台持たせており、今後は行政では珍しいフリーデスクの導入も検討しています。DX化を推進させ、働き方改革につながるワーク・ライフ・バランスも考え、職場環境の改善も目指しております。

DX化により対面で話す機会が減るとコミュニケーションが悪くなる心配もあるため、役職に関わらず「誰でも市長室

に相談しに来れる」体制づくりも実践され、一番大切な人間関係を構築できるよう工夫されているそうです。

小笠原市長は、東京農業大学農学部造園学科の卒業生で、造園業界の我々と一緒に意見を共有でき、温かく小笠原春一登別市長みのある市長です。今後の活躍に期待しております！



2. 全国の造園DX取組事例から学ぶ

2日目は札幌市に移動し、市内のホテル会議室において、近畿の部会員、東京の発表者、本部事務局とオンラインで繋ぎ、造園業界のDX取組の事例発表を行いました。

●発表①：(株)日比谷アメニス 情報システム部 今井田千佳氏

2040年問題（高齢化・人材不足）に向けて、造園DXの新しい取り組みをはじめました。

【施工現場での活用事例】

3Dモデルを活用することで省力化と

リスクの低減に非常に大きな効果を生む事ができた。

①BIM・CIMの活用事例

- 三次元データ上で、現場点群とデッキの詳細設計図を元に作成された3Dモデルを重ねて干渉を確認した事例では、iPhone ProのLiDAR機能を利用して点群データを取得。
- 干渉の有無や位置・高さを360度から画面上で確認。
- 施工後の点群データとの重ね合わせでも設計モデルと高い精度で一致していることが確認できた。

造園・環境緑化産業振興会 若手技術者による交流会を開催

造園・環境緑化産業振興会を構成する7団体の若手技術者による交流会が9月12日（金）、東京都町田市の「鶴間公園」において、開催されました。

この交流会は、少子化の進行や業界の認知度の低さにより若手人材の確保が難しくなっている現状を踏まえ、設計・施工・施設管理などの立場を超えて、各団体の若手技術者が一堂に会し、今後の造園・環境緑化産業が目指すべき方向について意見を交わすことを目的に企画されたものです。

当日は、各団体から5名ずつ、計35名の若手技術者が参加し、5つのグループに分かれて行動しました。まず、鶴間公園を日頃から管理している(株)石勝エクステリアのご説明を伺いながら、公園内を視察。その後、会議室に移動し、各ゲ

ループで視察結果をもとに意見交換を行い、最後にグループごとの代表者が発表を行いました。

夜には、公園内の「つるま食堂」にて懇親会が開かれ、昼間の活動では話しきれなかった意見や悩みを共有し合うなど、異なる団体の若手同士が積極的に交流を深める貴重な機会となりました。会は大いに盛り上がり、非常に有意義な一日となりました。

なお、日造協からの出席者は以下の通り。

【地域リーダーズ】

廣部修平（㈱南香園）、入山定治（㈱真緑）、金城健太郎（金城グリーン㈱）

【女性活躍推進部会】

藤本加奈子（箱根植木㈱）

中川京子（㈱富士植木）



若手技術者による交流会の様子

②撤去する構築物の点群データと埋設物の3Dデータを重ね合わせ、干渉確認を行った事例

- 従来は測量してCAD図面に落とし込む必要があったが、今回の規模では点群データを3分で取得し、約10分のデータ処理で干渉確認まで完了できた。

③鉄骨組の傾斜面の施工を含む植栽工事において3DモデルとARを活用した事例

- 2次元図面では理解が難しい構造を3Dモデルで表現することで、断面確認や問題点の事前検討が可能となり、作業員にもわかりやすく手戻りを減らせた。



公園DXパッケージの説明

同実施

- 公園の巡回ルートをロボットに自律走行させ、ロボットに搭載したカメラ映像で事務所から遠隔確認する「遠隔巡回」を導入し、従来人力で行っていた安全確認・定点写真・開花写真を自動巡回中に撮影。

- 将来的には定点写真をAIに学習させることで、正常・異常の判別に活用し、異常発見にも役立てていきたい。

- 将来的には、映像取得だけでなく、ロボットにアームを付けて簡単作業を可能にし、熟練者のノウハウ継承のためAI活用を進めたいと考えている。
- ※DX化について社内でも部署ごとに独自に様々な検証がなされている。現状、大きな問題は聞こえてこないが、今後もノウハウを広く活かせるよう継続して調査検証、情報共有をしていきたい。

●発表②：東洋緑化(株) 代表取締役社長 石出慎一郎氏

【造園現場機械の電動化】

- 電動化の効果は、騒音が少なく操作性が良いため女性でも扱いやすく、効率が高く低振動である。

- 電動機器はロボット式（リモコン操作）と充電式があり、芝刈や草刈で活用されている。若手には操作が容易で好評。

- エンジン式はパワー・耐久性に優れ、電動式は静かで軽量。

- 現在は性能だけでなく、人や環境面を重視して電動式を選ぶ傾向があり、弊社でもエンジン式と並行して電動式を導入し、作業員からも評価が高い。

- 今後の酷暑化に伴い熱中症対策が重要で、法令でも対策が義務化されている。（電動化で負担軽減）

- ベテラン作業員不足の中、電動機械は初心者でも扱いやすく、静音で早朝等の作業にも適している。

- DX化により業務改善や生産性向上が進み、会社全体の力も強化されるので、造園業界としてもDX化に向けて取り組む必要がある。

- ※現場でのDX化は身体の負担を減らし、環境にも配慮した取り組みなので、簡単な機械からで良いので、早めに導入した方が良い。

まとめ

（大場部会長）

職人中心の会社が多い造園業界にあって、どんな事からDX化すれば良いか考えさせられる勉強会となった。効率化だけでなく、技術継承や安全・品質向上につながり、雇用を守れる体制づくりも必要である。

何よりもDX化を円滑にするための人間関係が重要なため、今後も意見交換・情報発信を継続していきたい。



会場のホテル・ゆもと登別で集合写真

ふる
と自慢
宮崎県

五拍子そろつた自慢の宮崎



宮崎といえればマンゴーや青い海を思い浮かべる方が多いかもしませんが、地元の人がちょっと自慢したい魅力はそれだけではありません。

まずは自然と歴史。西都市の「西都原古墳群」は300基を超える古墳が広がる日本最大級の遺跡で、春の菜の花、秋のコスモスに彩られる景色は圧巻です。高千穂峡では神話の舞台らしい神秘的な雰囲気に包まれ、滝と渓谷の美しさに思わず息をのみます。

◆ 食の楽しみも外せません。地鶏を豪快に炭火で焼いた「もも焼き」



西都原古墳群

は香ばしくてジューシー。夏には冷や汁をさっぱり味わい、海沿いでは新鮮なカツオや伊勢えびに出会えます。

お土産には甘さと塩気が絶妙な「チーズ饅頭」が定番で、最近はバリエーション豊富に進化していま



高千穂峡

す。

◆ お祭りもユニークです。日向市の「ひょっこ夏祭り」は、愉快なお面をかぶった踊り手たちが街を練り歩き、見ているだけで笑顔になれる行事。芸術では神楽や工芸品など、素朴で力強い文化が息づいています。

さらに宮崎はスポーツキャンプの聖地。春になるとプロ野球やJリーグの選手たちが集まり、



ひょっこ夏祭り



アミノバイタルトレーニングセンター宮崎
ファンとの距離の近さも魅力です。トップアスリートが汗を流す姿を間近で見られるのは、この地ならでは。

自然・歴史・食・文化・スポーツと、五拍子そろつた宮崎。観光で訪れるもよし、のんびり滞在するもよし。来てみれば「また帰ってきたい」と思える、そんな自慢のふるさとです。

宮崎県支部 馬原 久幸(株馬原造園建設)



もも焼き



素敵な寄植えの写真に惹かれて、訪ねたお花屋さんで習ったのが「ギャザリング」というフラワーアレンジメントのような寄植えでした。



ギャザリング
レッスン①
ギャザリング作品②



コロンビア
ロード
フラワー
マーケットの様子

花徒然

花苗の根をほぐして、ほどいて、数種の花苗を組み合わせ絡めていくことで、繊細で細やかなデザインになっていきます。

カラーリーフ(葉物)だけの組み合わせでも個性的な仕上りになり、樹木との組み合わせ等自由な発想で制作するほど進化し、自己研鑽の世界でもあります。

◆ 今では、ちょっとしたお祝いに寄植えをプレゼントできるようになり、受け取っていただいた方の笑顔が何より嬉しいです。

ウェディングブーケもギャザリングで作れるので、いつかは挑戦したいと思っています(根っこがあるので、ブーケを長く楽しめ、お花の種類によってはお庭に植えることもできるんです)。

◆ 以前チャルシーフラワーショーで訪れた英

新入会員のご紹介

ようこそ日造協へ!

社名 / 住所	代表者 / FAX
(株)相生園緑地建設 佐賀県三養基郡基山町大字園部750 ☎ 0942-92-2545 FAX 0942-92-7358	鳥飼一平
(株)田中造園土木 佐賀県唐津市相知町大野1078 ☎ 0955-62-5357 FAX 0955-62-2423	田中秀樹

社名 / 住所	代表者 / FAX
グリーンアーツ(株) 佐賀県唐津市菜畑3221-138 ☎ 0955-74-7339 FAX 0955-75-1227	原田幸弘
(株)椿原造園 佐賀県唐津市千々賀648-2 ☎ 0955-70-3535 FAX 0955-70-3537	椿原正

日造協賛会員の紹介 (株)ユニック 陸上ドローンで社会課題を解決する



間の作業時間、1m越える丈の草もパワフルに刈るなどの特徴

を有し、NETISにも登録されています。

「陸上ドローンで社会課題を解決する」というスローガンのもと、これからも技術革新を通じて、持続可能で安全な社会の実現を目指してまいります。

株式会社ユニック
〒123-0874 東京都足立区堀之内1-16-16
URL <https://uniq-eng.com/>
TEL:03-5647-9188
E-mail : info@uniq-eng.com

●技術・技能調査部会: グリーンインフラ産業展実行委員会

10/9 来年1月に開催する展示会の企画について検討

●人材育成部会: 造園CPD推進委員会 企画会議・エビデンス部会合同会議

10/9 教育形態表やシステム変更について検討

●「街路樹剪定土研修会」講師説明会

10/7 研修会の講義の要点と造園ワークボジショニング作業について情報共有するため、ホテル機山館&WEBで実施(対面40名、WEB110名参加)

●登録造園基幹技能者講習(大阪)

10/23～24 大阪で実施、18名が受講

●女性活躍推進部会 建設産業女性定着支援ネットワーク 分科会

10/7 現場で働く女性技能者ならではの課題の把握および改善策の検討の分科会に出席

10/30 建設産業の未来を見据えた先進的取組の共有促進の分科会に出席

●2027年国際園芸博覧会特別委員会開催

10/2 博覧会準備状況、屋内・屋外出展の調整状況等について情報共有

●国際委員会: 国際企画部会

10/1 各部会報告、都市緑化機構打ち合わせ内容を検討

事務局の動き

【11月】

- 2(木)・2027年国際園芸博覧会日本政府出展起工式
- 4(火)・広報活動部会
- 5(水)・植栽基盤診断士認定試験(実地試験)(京都)～6日(木)
- 7(金)・植栽基盤診断士認定試験(実地試験)(愛知)
- 12(水)・緑地樹木剪定ハンドブック編集委員会
 - ・中国総支部と中国地方整備局との意見交換会
- 13(木)・建専連 全国大会
- 14(金)・中部総支部交流会
- 18(火)・北陸総支部交流会
- 19(水)・北海道総支部交流会
- 20(木)・植栽基盤診断士認定試験(実地試験)(東京)～21(金)
- 25(火)・植栽基盤診断士認定試験(実地試験)(福岡)～26(水)
 - ・造園・環境緑化産業振興会 代表者会議・国交省との意見交換会
- 27(木)・造園CPD推進委員会
 - ・全国造園デザインコンクール推進部会
 - ・全国造園デザインコンクール応募要項改訂WT
- 28(金)・広報活動部会

【12月】

- 4(木)・運営会議

委員会等の活動

●広報活動部会

- 10/7 日造協ニュース10月号の内容確認、2026年2月までの記事構成について審議
- 技能五輪等推進部会: 技能五輪全国大会
10/18～19 旧常滑高校で愛知県支部の協力のもと造園競技を実施。選手は20組(4名)参加
- 安全部会: 川崎北労働基準監督署ヒアリング対応
10/8 管内で起きた伐木・伐採の労働災害について対応

編集後記 木枯らし1号が吹き、秋を飛び越えて冬の気配が近づいてきました。猛暑だった夏の記憶も薄れつつありますが、来年もある暑さが予想されるため、今のうちから対策を考えておきたいところです。